

足立区男女共同参画推進委員会会議概要

会 議 名	令和7年度 第3回 足立区男女共同参画推進委員会		
事 務 局	地域のちから推進部多様性社会推進課		
開催年月日	令和7年10月27日（月）		
開催時間	午後1時59分 ～ 午後2時54分		
開催場所	L. ソフィア 3階 第2学習室		
出席者	【委員】		
	石坂 督規 委員長	國府田 豊 副委員長	ぬかが和子 委員
	かねだ 正 委員	さの 智恵子委員	笹 直美 委員
	内藤 忍 委員	片野 和恵 委員	舘山 明美 委員
	齋藤ゆきえ 委員	市川慎次郎 委員	永田 健一 委員
	笠井 健 委員	相澤 修 委員	秋山 知子 委員
	松村 慶子 委員		
	【事務局】		
	茂木 地域のちから推進部長	鈴木 多様性社会推進課長	
	渡辺 男女共同参画推進係長	柏村 男女共同参画推進係主査	
	市村 事業調整担当係長		
	【傍聴者】3名		
会議次第	1 開会挨拶 2 前回（8/27開催）のふりかえり 3 シティプロモーション課へのヒアリングについて 4 性別役割分担意識に関するアンケートについて 5 その他		

	6 事務連絡
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・資 料 1 : 第 2 回男女共同参画推進委員会 要点 ・資 料 2 : 足立区男女共同参画推進委員会アンケート実施 (案) ・資 料 3 : 足立区男女共同参画に関する区民意識調査 令和 3 年度調査票 ・資 料 4 : 令和 7 年度男女共同参画推進委員会 議題 (案) <p>【参考資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様性社会推進課所管各講座等のチラシ
そ の 他	

様式第2号（第3条関係）

（審議経過）

1 開会挨拶

（鈴木課長）

本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。定刻になりましたので、令和7年度第3回足立区男女共同参画推進委員会を開催したいと思います。

当委員会は、足立区男女共同参画推進委員会規則第4条に基づきまして、総委員の半数以上の委員が出席ということで会議を開くことになっております。本日15名の委員の方にご出席いただいております。委員会が成立しておりますことを、まずご報告させていただきます。

続いて、会議の公開についてです。同規則の第5条により、当委員会は公開することとなっております。あわせて、会議録の作成が必要となっております。委員の皆様のご発言につきましては、後ほどご発言内容を確認いただいた上で、ホームページなどで公開する形となっております。議事録作成のためマイクを通しての録音をしておりますので、恐れ入りますが、発言の前にお名前をおっしゃっていただきますようお願いいたします。

また、本日は傍聴人の方もお見えになっておりますので、ご承知おきください。

早速ですが、次第に沿って進めてまいりたいと思います。

まずは開会のご挨拶を石坂委員長よりお願いいたします。

（石坂委員長）

改めまして、石坂です。よろしくお願ひします。今日ですけれども、時間が非常に短い、1時間での推進委員会と、この後に実は講座評価の小委員会が開催されますので半分の方は残っていただくと、このような形で本日進んでまいります。

ですので、具体的なヒアリングとか中身の議論というのは今日はちょっとできないかもしれませんが、この間の様々な決まった経緯、あるいは今後のスケジュールについて今日は確認させていただくと、こんな場にしていただけたらと思いますので、本日はご協力よろしくお願ひいたします。

（鈴木課長）

続きまして、お手元の資料の確認をさせていただきます。

1枚目が次第となっております。2枚目以降が資料となっております。

順番に、資料1が、第2回足立区男女共同参画推進委員会の要点です。資料2、足立区男女共同参画推進委員会アンケート実施（案）です。資料3、足立区男女共同参画に関する区民意識調査 令和3年度調査票でございます。資料4、令和7年度足立区男女共同参画推進委員会の議題（案）となっております。

次に、参考資料です。

当課で実施しております講座のチラシを4枚お配りしております。不足等ございませんでしょうか。

2 前回（8/27開催）のふりかえり

（鈴木課長）

それでは、引き続き次第に沿って進めさせていただきます。

次第の2、8月27日開催、第2回推進委員会のふりかえりですが、資料1に沿って簡単に説明させていただきます。

前回、8月27日は、項番1の男女参画プラザ委託講座の評価方法についてまず話し合いまして、その後、項番2と3の今年度の検討テーマであります性別役割分担意識と広報・啓発について、具体的な審議の進め方を話し合いました。

まず、講座評価のやり方を議論する前に、事務局から現在の委託事業者が令和8年度の受託を辞退したため、来年度の委託事業者を選定するための公募型プロポーザルを今年度実施することになったと報告いたしました。そして、今年度の講座評価方法につきましては、全委員が評価に関われる機会を確保しつつ、議論の時間を十分確保できますよう、全委員を2分割しまして前期、後期どちらかに参加する方式を採用することになりました。

前期、4月から9月分の実施分につきましては本日の委員会終了後に、後期、10月から3月の実施分につきましては3月に実施予定でございます。

続きまして、検討テーマの審議を行いました。項番2、1つ目のテーマ、性別役割分担意識についてです。

性別役割分担意識に関する審議では、足立区で前回実施した区民意識調査や東京都の無意識の思い込み実態調査など、データに基づきまして、共働き世代であっても食事の調理など、男女の家事負担の偏りが見られるといった実態が確認されました。

そこで、これまでのようなヒアリングだと断片的な意見となりがちなので、アンケート調査を実施して子育て世代の多様な声を広く集めるべきだという意見が多く出ました。その結果、性別役割分担意識については、子育て世代を中心に家庭内での家事や育児の役割、仕事とのバランスなどを問うオンラインアンケートを実施してはどうかということになり、その設問案を本日第3回の会議で皆さんに提示できるよう準備を進めることになりました。

項番の3、2つ目のテーマ、広報・啓発についてです。

広報・啓発のテーマについては、提言に

向けた議論の根拠を得るため、区の広報担当部署へのヒアリングを実施できないかという話になりました。ヒアリングでは、あだち公的表現ガイドが区内でどの程度浸透しているのか、また、男女の性差に関わる広報について、区としてどのような取組をしているのかを確認します。

このヒアリングは、1月の委員会で実施される見込みです。提言の最終決定については、これらの結果を踏まえまして、2月の委員会で完成させるというタイトなスケジュールになります。

前回の振り返りについては、以上になります。

3 シティプロモーション課へのヒアリングについて

(鈴木課長)

続きまして、次第の3、シティプロモーション課へのヒアリングについてです。ここからは石阪委員長に進行をお願いいたします。

(石阪委員長)

それでは、シティプロモーションへのヒアリングについてということになりますが、こちらのほうですけれども、ちょっと振り返ると、前回2つのテーマが決まりました。1つは性別役割分担意識についてのアンケート、これを子育て世代を中心に行うと、そのために区の幾つかツールがあるということでしたから、それを使って実際やってみようかという提案がありました。だから、これをまず1つすると。

それからもう一つが、やはり広報、せっかく表現ガイドというのができて、これが本当に活用されているのかどうかと、それから、実際に足立区が広報するに当たって、この男女の様々なこういった問題、課題に

ついてどのような形で広報しているのか、こういったことを担当者を呼んで聞いてみたいと、こういう声がありましたので、この2つのテーマで報告書を作成するというようなことが決まったわけですが、まずこのシティプロモーション課へのヒアリング、こちらについてどのようなスケジュールでいくか、これをまず課長のほうからお願いします。

(鈴木課長)

前回、庁内の広報物において当課が発行いたしました公的表現ガイドが活用されているかについて、広報の所管にヒアリングを実施したいというご意見をいただきましたので、庁内の広報物品質向上支援を担当しておりますシティプロモーション課シティプロモーション係のほうに委員からのご要望をお伝えいたしました。

そうしましたところ、1月28日開催の第5回推進委員会へ出席し、ヒアリングを実施することとなりましたので、ご報告いたします。

(石阪委員長)

1月にこちらにお越しをいただいてヒアリングをします。その前段として、12月22日のこの会議でどんな質問をしたらいいかということをご一緒に調整したいと思いますので、12月22日にこの質問事項の確認、あるいは皆さんからいただいてそれを検討したいと、このように思っております。

ですので、こちらのほうはスケジュールに沿って進めていくということになります。

4 性別役割分担意識に関するアンケートについて

(石阪委員長)

もう一つ、実はこのアンケートのほうな

んですが、これがかなり大変だったと、この間、事務局にいろいろ動いていただいたんですけども、教育の持っているツールを使うということも含めて、この間の経過、経緯ですね、これをちょっと説明いただきたいと思います。

(鈴木課長)

前回の推進委員会の後、アンケートの実施について準備を進めてまいりましたが、年内の実施が難しくなりましたので、委員の皆様へ今後の進め方についてご相談させていただきます。

当初、公立小中学校保護者の90%が登録しているというC4th Home & Schoolによってアンケートの回答を呼びかける予定でした。しかし、配信には学校教育に関する条件があるということで、今回のアンケートに関する配信ができないことが分かりました。

C4thを使った広報ができない場合、一定数の回答を集められないので、事務局としてほかの方法を検討した結果、委託によりアンケートを実施する方法を今回ご提案させていただきますと考えております。

来年度、足立区男女共同参画に関する区民意識調査を委託にて実施予定となっておりますので、こちらは区民3,000人を対象とした大規模な調査で、令和9年度に策定予定の第9次足立区男女共同参画行動計画の基礎資料とするため、実施するものです。

お配りしました資料2のほう、区民意識調査の概要をまとめた資料、資料3が前回、令和3年度に実施した区民意識調査の調査票となっております。こちらの設問のうち、回答者の属性や家事、育児における役割分担など、推進委員会でご要望のありました設問と重複する部分がございます。

そこで、今年度は推進委員会より区民意

識調査の設問についてご審議いただきまして、来年度は区民意識調査の結果を踏まえて審議いただくという方法を事務局よりご提案させていただきます。

なお、令和7年度に意識調査とは別に推進委員会でもアンケートを実施するとなった場合、その場合、400万から500万の委託料が必要となっております。また、現時点からの契約、これから契約したという場合、報告書の作成を提出いただくのが3月末となりますので、提言の基礎資料として利用できないという課題もございます。

ここで、資料4のほうをご覧いただきたいと思います。こちらは、次回以降の推進委員会で審議いただく内容についてスケジュール案となっております。

次回、12月開催の第4回推進委員会では、1月に実施しますシティプロモーション課への代表質問10項目について審議、決定いただきます。また、来年度実施する区民意識調査の設問について、前回の調査票を基に審議いただき、性別役割分担意識に関する提言案を決定いただきます。

1月開催の第5回推進委員会では、シティプロモーション課職員出席の上、ヒアリングを1時間程度実施いたします。ヒアリングは、委員長より代表質問10項目を行いまして、時間に余裕がある場合は各委員より自由質問を行います。シティプロモーション課職員が退室した後、広報・啓発についての提言案について審議、決定いただきます。

2月開催の第6回推進委員会では、今年度提言を決定いただく必要がありますので、第4回、第5回で決定しました提言案を基に審議、決定いただきます。このような流れとなっております。

(石坂委員長)

ありがとうございます。

という流れになるわけですが、まず事の経緯から言うと、アンケートを取ることが決まったわけですが、これはやはりC4thというんですか、これとあと、その教育委員会のやっているものはなかなか教育以外のアンケートは難しいと。恐らくですけども、いろんな情報がそこに入ってきて結構保護者からも大変だという、これはたくさん情報があり過ぎるということで、ひょっとしたら何か批判やクレームがあったのかもしれない。ですので、我々のアンケートをそこに掲載してくださいということもなかなか難しいですし、先方もちょっとそれは難しいということで、それができなくなったと。

じゃ、自前でもアンケートやるとなると、まずそんなに集めることができるのかと、子育て世代を抽出してそこにアンケートを送ると。恐らく回収率も30%行くか行かないかというレベルですので、これは難しいなということで、これは本当にたまたまなんですが、来年度区民意識調査、男女共同参画やる年なんですよ。これは本当に私は運がよかったと思っているんですが、来年あるのであればこれにむしろ乗かってしまって、ここでアンケートを取ると。

これは資料2にもありますが、大体令和3年度、前回やったアンケートは3,000名に対して送って回収率が37.9ですので、1,000件以上の方の回答があると。子育て世代というほうに限って言うと、恐らく400ぐらい取れるんじゃないかなと思うんですね。これでいうと20代、30代、40代で子どもを育てている方ですけども、そうすると400ぐらい集まれば比較的子育て世代のかなりの多くの声を聞くことができるんじゃないかと。

ですので、まずこちらの区民意識調査、これは恐らく委託する事業になりますので、これは当然お金も発生して本格的な調査なんですけれども、こちらにまず重ねてしまうということですが、これについて皆さん、どうでしょう。ご意見としては。ちょっとずれますので、1年、半年、1年ずれるんですけれども、なかなか現実的にアンケートするのは難しいと。

じゃ、こちらについてはご了解いただくということでもよろしいでしょうか。せっかくなので、この大きなアンケートに載せてしまうと。

それでは、これをご了解いただいたその後ですが、これは実は前回のアンケートを皆さんに、令和3年度、3年にやったアンケートですけれども、これは今のところ自由に質問を加えたりすることもできるということですので、この間、半年間かけて皆さんからこんな質問を入れたらどうかとか、あるいはこういうことを特に加えたらどうかということをご議論していこうということにします。

ただ、これを経年的に変化を見るというものもありますから、同じ質問ももちろん大事なんですけれども、新たに加えるようなものもここに合わせていきたいと思いますので、次回以降、この質問に何を加えるのかということをご議論いただくと。

報告書のほうには、こういう質問を加えるべきだとか、こういう意図や考え方というのを反映させるべきだということを区長に対して報告書の中に入れて申し上げたいというふうに思います。

ですので、アンケートの結果の分析というのはちょっと次年度になってしまうということですね。これはいかがでしょうか。

この質問が今、結構あるんですよ、これは理想の家事分担とかですね。ただ、あくまでこれは実態調査なんですよね。しかもこれは子育てだけじゃなくてご年配の方から若い方までいろんな方が入っていますので、恐らく最終的には子育て世代を抽出するとするとクロス集計のような形で、子育てしている方だけに限定したデータを引き出すことができるということですので、そういったことをちょっとやっていきたいと。

内藤さん、どうですか、これでやるというのは。

(内藤委員)

ありがとうございます。私は来年度これに混ぜるということで賛成です。

ただ、前回ここでの問題関心というのは、特に一般的な育児というよりも、子どもの特にその特別な状況、障がいとか、発達障がいとかを含む障がいとか病気の看護とか対応といった面ですごく女性にしわ寄せが行っているということ、行政や学校がすごくそのことに関わってくれるということはすごくいいことで、子どもにとってすごくいいですし、家族にとってももちろんいいんですけれども、それがその性別役割が偏っているということがあるんじゃないかということが少し指摘されたと思うので、その点も留意しながら、来年度の項目を見て、きちんとそれが取れるようになっているかというふうに見たほうがいいかなというふうに思いました。

その点で今ちらちらと見ますと、後ろのフェイスシートという18ページ以降の本人のことを聞いているようなところに、例えば19ページのところに介護をしていますかとF9のところにあるんですけれども、あと、項目としては5ページに先生が今指摘された現実の役割分担とか理想の役割分担

のところ、家族の日常的な介護や看護というところで該当するか、しないかというものもあるので、一応看護とかはざっくりした形ではここで取れるんですけれども、そこにフィーチャーして考えると、もう少し詳細に聞くものがあるかもしれないのかなという感じはしました。

ちょっと皆さんのご意見もお伺いしたいです。すみません、具体的なところまで言ってしまうと。

(石阪委員長)

あと、委員の皆さんから出たのは、やっぱりアンコンシャス・バイアスのところですかね。例えば家事を自分はやってはきたけれども、これは当たり前だと思って実はやってきたとか、あるいはやらないことが逆に当たり前であったみたいな意見もたしかあったと思うんですが、そういった部分をどうやって聞くかということですよ。

これはあくまで実態調査や意識でも非常に表面的なところなんですけれども、それが何に起因するのかという原因までを踏み込んで聞けていないので、例えばそういった教育を実は家庭で受けてこなかったとか、あるいは学校教育の中でそういった機会が全くなかったと、だから自分はこんな考えになってしまったんだと、その原因や理由のところ、ここまで踏み込んで聞けると、よりその辺がクリアになってくる。つまり教育で足りなかったところはここなんだとか、家庭の中で全然そういう議論がなかったというのは、やっぱりそこに原因があるんじゃないかと思うんですね。そこまで踏み込んでいけるのかなと。

ちょっと皆さんからいろいろ意見も伺いたいんですが、こんな質問があったらいいとか、こんなところを聞いたらどうか。

お願いします。

(さの委員)

ちょっと質問ではないんですけども、これは令和3年に3,000人の方にとということでございまして、人数の状況を見ると結構ばらつきがあるんですけども、結構設問が多いともうやらないという区民の方があって、今回これはボールペンを同封していただいている回答になるんですけども、ちょっとその辺の謝礼のこととか、あと、答えやすい設問でないと結局何か、せっかくと意図することはたくさん盛り込んだほうがいいと思うんですけども、やはり答えやすいということがとても大事なかなと思っているので、これだけでもすごいページ数で、今回オンラインとかネットでもお答えができるということなので、ちょっと質問を私も全部はまだ、ちょっと一読した程度なので、やっぱり答えやすさというところをどうやっていくかということが大事なかなというのを思っているのと、やはりあと若い方にと考えると、やっぱりどうしても50代以上の方とか、40、50、60の方が多いというところもちょっとあるので、そういう若い方にお答えいただくというのと、答えやすい設問というところに注意をして考えていければと思いましたので、すみません、質問させていただきます。

(石阪委員長)

どうぞ。

(内藤委員)

事務局に質問なんですけれども、この令和3年度の前回のことについて、今のさのさんのに関連して、これは年代、抽出で3,000名ですけども、年代も均等というのか、どのように対応しているんでしょうか。

(石阪委員長)

ランダムにやっているか、層化という、世代をある程度決めてやっているか。

(柏村主査)

前回調査時は、年代別に男女何人ずつというように形で指定をして抽出、3,000人しています。やはり各年代一律何人ずつという切りのいい数字ではなくて、若干人数の差はあったりしますが、指定してきちんと標本数を取っております。

(内藤委員)

多分この年代別で見ると若い人のほうが人口が少ないと思うので、この回答率37.9%、これは多分合計でそういう数値だと思うんですが、この辺は若い人のほうが回答が低いとか高いとかあるんですか。

(柏村主査)

各年代の抽出数というのがすぐ出てこないんですけども、ただ、そこまで大きな差が、2倍とか、それぐらいの差はなかったと思うので、やはり若い世代の方になかなかこういった調査ものに回答いただくのが難しいかなというところです。

当時なぜボールペンを同封したかというところだと、結構若い方だともう筆記用具が自宅にないとか、そういうこともあるそうなんです。なので、筆記用具を同封することで回答率を上げるというような、そういう工夫もあるということがありました。

(石阪委員長)

はい、どうぞ。

(かねだ委員)

地域というのは、どういうふうに考えているんですか。どういう地域に、地域によっていろいろ、北千住である、西新井だったりとか、その辺というのはどういうふうに。

(柏村主査)

前回の調査票の18ページ目以降を見ていただくと回答者の属性というところにあるんですが、お住まいの地域に関する設問は

ないのですね。なので、区の調査で地域を伺う調査もあるとは思いますが、こちらに関しては伺っておりません、あくまでも1つの年代のクロス集計という形です。

(かねだ委員)

じゃ、どこかの地域に偏っているということは全く分からないということでしょうか。

(柏村主査)

おっしゃるとおりです。

(かねだ委員)

はい、分かりました。

(石阪委員長)

はい、お願いします。

(永田委員)

実は、最近も区から来たアンケートがこれと同じような感じなんですけれども、原則宛名本人の方がお答えくださいと、ただ、回答できない方は家族とか、そんな感じだと思うんですけども、妻宛てに来たんですね。妻宛てに来て、妻は何か回答出さなそうだったので僕が書いたんですけども、結局まず妻宛てに来ているから妻に回答してほしいと、女性側の意見を多分聞きたいのかなと思って、だから男性の僕が答えていいのかなとか、ちょっと躊躇するところがあつたんですけども、そういうちょっと勘違いする方とかいないかなというのが一つあるのと、あと、こういうのって男性、女性問わず両方、例えば片方は紙で出して片方はネットで出すとか、要はそういう複数出すことが可なのか。同じ人が2つ出すのはNGですけども、妻と旦那が両方出すとか、そういうことができるのかとか、そういうのがちょっと分かりやすいほうがいいかなというふうに思いました。

以上です。

(石阪委員長)

これは恐らく、きちっと書かないといけないですね。回答者を指定するということがよろしいですか。

(柏村主査)

令和3年度の「ご記入に当たってのお願い」のほうに、1番目の黒丸で、回答は原則として宛名の方がお答えください。回答できない場合、ご家族や介助の方がご本人の立場で、ご本人の意見に沿ってということになっています。これもやはり男女それぞれの考え方というのを偏りなく集計したいというところがあるので、3,000人抽出する段階で男女どちらかに人数が偏らないようにというところでやっています。それプラス性別については答えたくないという選択肢を設けるなどの配慮もしている状態です。

この調査票、資料3と書いてあるところの右上にIDというのがあるんですけども、紙の調査票にも回答者のIDが記載されています。それから、オンラインで回答する際は、あなたのIDはこちらです、パスワードはこちらですという形で回答者のIDで管理するようにはなっているので、恐らく調査会社のほうで重複回答の部分はチェックはしていると思うんですけども。

(永田委員)

とすると、夫婦で2人出すということは想定していないという、ID1つということとはそういうことでよろしいんですかね。

(石阪委員長)

そういうことです。

(永田委員)

はい、分かりました。

(石阪委員長)

相手が別々だったらもちろんいいんですけども、1つのIDで2人で回答するこ

とはできないと。

ほか何かありますか。ちょっと2人いきましよう。じゃ、片野さんから。

(片野委員)

これは設問見ている、今はもう時代的にこの設問ないかなと、削除項目も幾つか出てくるんじゃないかと思うので、それをまず提示していただいた上で、これはどれを足していくかというふうにしていけば、全体の数ってすごく回収率に関係があるとほかの調査でも聞きましたので、あと、やっぱり、今アンケートいろいろやっていますけれども、皆さん鉛筆持つのが嫌だという人も結構いるんですよ。筆記用具を持つ習慣がない。なので、ないという、家にもないもそうですけれども、まずどっちか選ばれたら若い方は多分オンラインのほうじゃないかなと思うので、そういうちょっと誘導もこれから考えたほうがいいんじゃないかなというふうに、回収率を上げるためには、はい。よろしくをお願いします。

(石阪委員長)

ありがとうございます。

はい、お願いします。

(笠井委員)

ありがとうございます。ちょっと気になった質問が2つほど。先ほどとちょっと重複するところはあるんですが、さの委員が言っていたように答えの数がというか、質問数が多いと答えづらいんじゃないかというところでちょっと気になったのが、この資料2に7年度と8年度の一応その数ですね、質問数が10からいきなり50から60に上がったのはなぜかというのが1つと、先ほど言われた全体的にこの資料を見てやっぱり減らすべきは減らしたほうがいいなというところで、このデジタル、インターネットで答える部分と、これは同じ数を発行す

るということでもいいんでしょうか。お願いします。

(石阪委員長)

では、事務局のほう。この質問数10は違うんですけどもね。今年度としてやる場合ということですね、令和7年度。

(笠井委員)

やる場合に10問ぐらいは。

(石阪委員長)

やる場合は10ぐらいを想定している、そういうことですね。

(柏村主査)

そうです。令和7年度は推進委員会だけの独自のアンケートということでしたので、オンライン回答だけで、5分程度で回答できるだろうということで10問程度ということを考えておりました。

2つ目の質問なんですけれども、2つ目が……

(笠井委員)

2つ目ですか、これは用紙に記入とインターネットと同じものを同じ数ということによろしいですか。

(柏村主査)

はい、3,000人の方にご協力をお願いしますという依頼をかけまして、オンラインからでも紙回答でもどちらでも大丈夫ですという形でやります。回答率を上げるために調査票を発送してから一定期間たった後に、葉書でアンケート回答のご協力ありがとうございました、もしくはまだの方は期日はいつまでなのでご回答お願いしますというリマインドをするということも委託業務の中に含める予定です。

(笠井委員)

ありがとうございます。

(石阪委員長)

はい、どうぞ。

(内藤委員)

いろいろ皆さん、ご意見ありがとうございます。

3点あって、1点は、今笠井さんがおっしゃった、さのさんもおっしゃったその質問数の問題なんですけれども、あと、片野さんがおっしゃった要らないのもあるんじゃないかという話なんですけれども、多分、政策的にその経年的に見てどうだと、使ってきているところもあると思うので、皆さんからご意見も、これはもうこの先の政策的にも要らないんじゃないかというのもありつつもいろいろあると思うので、出していただいて、それを来年度のアンケートに生かしていただくと。

恐らくここでは、ここの提言に活用する部分、絶対これは聞かなきゃいけないんだというのを多分私たちとして提言すると、こういうのを盛り込んでくださいという形で、後のところの消したらどうかはアイデアとしてお伝えするという事かなと思いました。

あと、令和3年度の、多分次回あれですよ、本格的に検討するという事ですよ、意見出すと。そのときまでにもうちょっとこの令和3年度の結果も含めて見たいという人もいると思うので、あれでしたっけ、柏村さん、これはインターネットに、ネット上にこの結果も載っているところはあるんでしたっけ。そうしたら、それをご紹介いただくということは可能ですか。

(柏村主査)

足立区のホームページで、この調査票のタイトルですね、男女共同参画に関する区民意識調査、検索していただきますと当該のページが出てきます。調査票自体は第2回推進委員会でお配りしたとても分厚いクリーム色の冊子なんです。なので、また

そちらを参考資料として次回お配りするんですけども、オンラインにもそれと同じページ数のものが出ています。それとは別に概要版ということで、もう少しボリュームが少ないものもありますので、もしよろしければそちらもご一読ください。

(内藤委員)

はい、ありがとうございます。それを、じゃ、私たち参考にして予習してくれば良いということですね。

(柏村主査)

そういうことになります。

(内藤委員)

あと、3点目なんですけれども、前回聞いたかもしれないんですけども、そのデータについて前回のデータを年代別とかで見たらまた今度の参考になるんじゃないかといったときに、あれでしたよね。たしかそのクロスというか、生データをもっていないとおっしゃっていましたっけ。

(柏村主査)

生データなんですけれども、クロス集計がされていないもの、ありそうだったんですね。ただ、どこまで活用できるデータなのかというところがちょっと今後皆様のご要望を踏まえた上で出していくというような形を取りたいと思います。

なので、全く生データがないという状況ではありません。

(内藤委員)

ありがとうございます。それは令和3年度について、そのときの業者さんに出してもらえるとという意味ですか、それとも今度の令和8年度の調査の委託の内容で、そういうクロスまで出してもらおうということをや委託できるように考えるということですか。

(柏村主査)

令和3年度のデータについては、各設問

の数というか、20歳代の男性がこの設問にこう回答したというデータはあるんですけども、令和3年度の回答を例えば20歳代の男性が実際の家事、育児にどう現実問題として関わっているのか、理想としてこうあるべきだと考えているのかという事業者から出てきたクロス集計のデータはあるんですけども、新たなクロス集計をしたいとなったときに、ちょっとそちらは難しいんじゃないかなという状態です。

なので、令和8年度の実施については、例えばこんなことを知りたいので、ここここのクロス集計をしたほうがいいんじゃないかというご提案をいただきましたら、今後その委託の段階でそれを盛り込むことを検討することは可能かと思います。

(石阪委員長)

簡単に言うと、3年度はもう出来上がった報告書以上のものは出てこない。

(内藤委員)

分かります、はい。確認です。そうすると、何か今ここに令和8年度のアンケート、資料2のところに来年度のスケジュール書いてあるんですけども、もしも私たちとして令和3年度の結果を踏まえてこういうふうにクロスやってもらえたらもっと使えるんじゃないかということが湧いてきたらここで意見として言うておけば、委託内容の、仕様内容にはもしかしたら間に合うかもしれないということですか。はい、ありがとうございます。

(ぬかが委員)

私もすみません、1点だけ。先ほどの項目の関係で言うと、確かに少ないほうがいいに越したことはないし、例えばコロナ禍云々なんていうのはクエスションとしてというのは次回以降議論だけれども、当然なくなっていくだろうというのは思っている

んですけれども、同時に今回もともとアンケートをやるというのがこの性別役割分担意識の部分について聞いていこうということと、それを今回の定期でいくと、通常の男女共同参画の計画改定に向けての意識調査ですよね。そこでの幅広いアンケートに載せましょうということていくということと考えると、あまりに削るといのはやはり無理なんだろうなと思っているのが1点と、その上でやはり今回のテーマになっているところについては、また一生懸命知恵を絞ってきますけれども、やっぱりそこそこ厚くしていかなきゃいけないんじゃないかというふうに思っているのは意見なんですけれども、併せて、そうすると次の議題のところの今後の議題にもかかるんですけども、もともとこの提言を年度内に出していこうかということもありましたよね。年度内に大体2つ提言を出してということてやりますよね。そうすると、この性別役割分担意識に関してはどうしていくのかなというのがすごい素朴な疑問で、もう一つのシティプロモーションを聞いて広報というのはすごくよく分かるんですけれども。

(石阪委員長)

これについては、1つはこの部分についてですけれども、提言というよりはこの意識調査の中にこういった考えやこういった設問を入れてくださいという提言にするのが1つ、それからもう一つは、この調査とは別に皆さんから意見をいただいて、それを取りまとめて提言化するという、この2つのパターンが恐らくあると思うんですけれども、今のところはこの例えば質問にこういう形で加えると、削るものは削ると、こういったことを調べたいがためにこういうような設問を加えたりとか、こういう分析をしてほしいということを提言する、ど

ちらがいいかということですね、だからね。

(ぬかが委員)

それしかできないんだね。

(石阪委員長)

物理的にその先はちょっと難しい。

(ぬかが委員)

よく分かりました、ありがとうございます。

(石阪委員長)

ほかいかがでしょう。

はい、お願いします。

(相澤委員)

ちょっと質問なんですけれども、令和3年でやられているんですよね。アンケートをやられていて、この設問とその答え、結果というんですか、回答結果の設問間の相関とか、こう答えた方はこの設問の答えでこういうふうに答えているみたいな相関って見ているのかなというのであったり、ただ、その辺分析されると、事務局の方からするとある程度の仮説でもうつかんでいらっしゃるのか、こういうふうな状況だとかこういうふうな結果が出やすい、こういうふうな方はこういうふうな不具合が相関として出ているみたいなどところを押さえられているかどうか、ちょっと質問です。

(石阪委員長)

これはなかなか難しいんですけれども、クロス集計も一部ありますね。年齢と、例えばその回答との相関、ただ、俗に言う、今で言うと幾つかの変数が多変量解析みたいなものは当然できてないので、3つの変数があって、それがどの変数が一番関連が高いのかとか、本来分析やろうと思えば幾らでもできるんですけれども、恐らくほぼほぼがまず単純集計ですね。単純集計。一部クロスが入っていると、そういう感じでしょうかね、イメージとしては。

ですので、突っ込んだ分析は恐らく専門家を入れてないと思うんです。調査会社だけを入れてやっていますから、むしろこの場で議論するような話なのかもしれないです。

だから、いかがですか。それだとやっぱりちょっと不足と。

(相澤委員)

不足なんだろうなと思いました。

(石阪委員長)

ですので、この場でぜひ、次回以降ですけれども、どの変数とどの変数を掛け合わせたものを見たいということはちょっと皆さんのほうから言っていただければ、これはクロスかけることもできるし、いろいろ、例えばさっき場所、地域の差とか、あるいは年齢がありました。それから家族構成とか、子どもがいる、いないと、これとそれぞれクロスをかけてみたりとか、そういうことも恐らくできますし、いろいろ可能性はあると思うので、そのあたりも次回以降こういうことが見たいと、調べてほしいというようなことは皆さんのほうからまたおっしゃっていただければと思います。

ほかいかがでしょうか。

ですので、かなりこれ、令和3年はいわゆる調査をただやって報告書をつくったという、それで終わったんですけども、この8年度の調査については、ひよっとしたらそこはかなり分析が加わってきたり、あるいは新たな変数を掛け合わせてみたり、こういうことも実はできるという、今から準備をすればそれができるという意味で、かなり突っ込んだ今まででできなかった分析がひよっとしたらできるかもしれない。これは恐らく区当局や区長も期待しているんじゃないかと思うんですよね。足立区の例えばジェンダーギャップの原因がどこにあ

るのかとか、性別役割分担意識の我々が知り得なかったものというのはひよっとすると出てくるかもしれない、こういう可能性もあるということですね。

(内藤委員)

今議論になっている子どもの対応、いろいろ特種な状況の子どもの対応とか家事における役割分担とか、前回話に、話題に上がったような項目って、実はこの中に結構盛り込まれていると思っていて、今までのアンケートに。ちょうどその2のワーク・ライフ・バランスの推進の間12とか、その辺りですよ。とか、フェースとも掛け合わせると、大分その役割分担のところは実はもう項目としては入っていて、だから今上がっている、相澤さんも言っていた、私も言いましたけれども、どうやって掛け合わせて深掘りできるかというところなのかもしれない、皆さんには今、柏村さんからご紹介いただいたように、この調査の名前を入れると本編も出てきて、実際48ページとかその辺りに結果がずらっと出ていますけれども、その辺りもちょっと予習していただいて、多分何と何を掛け合わせてみたらもっと深掘りできるかというポイントなのかもしれません。新しい設問を入れるというよりというところをちゃんと深く実態把握してくださいみたいな提言だとあり得るのかもしれないかなと。

(石阪委員長)

提言するときね。

(内藤委員)

そうですね、はい。

(石阪委員長)

それはあり得る。

はい、片野さん。

(片野委員)

調査結果をどう使うかというところがす

ごく問題になってきて、何のために調査をして何をしたいのかということだと思っただけでも、私自身は前秋山さんがおっしゃっていた要するに年代別のギャップ、そのジェンダー、性的な役割分業に対するギャップがどういう形で今、社会現象に関係しているのかということ。

例えば町会とか入らないのも、それもあるといふに言われていますけれども、実際それが結びついているのかどうかというところ、やっぱりすごく役割、本当にやっぱりあると思うんですね。当たり前のように男性がこれやって女性はこれねみたいなことをやっけて、それをやっぱり受けてきた教育によってはすごく差別と感じたりする人もいると思うんです。だから、そういうところの世代間のギャップみたいなものが調査で浮き彫りになればいいかなと思っていて、それに対して例えば実際その名前を出して、だから町会に入らないんですかみたいなのは聞きませんが、そういったところでこの調査結果をどう使っていくのかということをやまずイメージしないと、この集計は何が知りたいのかが浮かんでこないと思うので、そここのところも考えてやはり調査の項目はつくるべきじゃないかなというふうに思います。

(石坂委員長)

まず1つは、調査の方法として見ると、先ほど言ったように、年齢が上がっていくと性別、男女の性別役割意識というのは格差が開いてくるという、これは恐らく皆さんも想像できると思うんですね。若いときはそうでもなかったのが、年配の方になるとその辺が非常に開いている。これは多分、データとしてもあるはずなんですよ。問題はそれが何に起因しているのかと、結局年齢の問題なのか、例えばもっと言えば

今の30代が60代になったら同じような方向になるのか、これは完全に年齢の問題と。そうすると、もうこれってどうにもならないですよ。年が上がっていけばそうなるちゃうと。

ただ、そうじゃないんだというところが実は年齢の背後に何か別の要因があるんじゃないか、第三の要因がですね。このあたりが分かると性別役割分担意識の差というのが見えてくる。実は年齢要因とみんな思いがちだけれども、年齢の背景には例えば教育や家庭の影響だとか、あるいはその結婚観とか子育て観みたいなのが実は大きく影響があるんじゃないか。

あとは、もっと言えば収入とか、それから家族構成、こういったものとひょっとしたら相関があるんじゃないかとか、このあたりを知りたいというのが1つと、それからこれを何に役立てるかということですが、これは基本的には何のためにやる調査かということ、これは計画を策定するための資料になりますので、これで出てきた分析をして、その結果こういう施策に役立てる、いわゆる事業とか政策に役立てるための調査ということ、そういうことですよ。

これは次の計画に必ず入ってくると、結局原因がここにあるんだということであれば、それを是正していくための具体的な事業政策というものに反映されるということになると思います。あくまでその先には計画があるということですね。

ほか何かありますでしょうか。

はい、お願いします。

(秋山委員)

片野委員、ありがとうございました。私もちょっとこの世代間の考え方の違いによってちょっと嫌な思いしたことがあるかどうかという項目はあってもいいかなと思っ

ていたので、言っていただけてうれしいです。

私がこのアンケートで思ったことは、まず今50歳での未婚率って男性は4人に1人が未婚、女性は7人に1人が未婚という状況になっているので、このアンケートをご回答される方の中にもそのぐらいの割合で含まれてくる可能性が高いなと思っているんです。

ただ、このアンケートを全体的に見ていくと、やっぱりどうしても結婚しているご家庭だとか、あと女性だけに焦点が当たった質問が多いように感じています。例えば5ページの間12とかは、現実での役割分担、この質問の仕方も女性親族とか男性親族というふうには書いてはいますけれども、多分シングルの男性だったらこの設問見た段階で全部1に丸つけちゃうと思うんですよ。

なので、シングルの方が社会の中で感じるその男女性別役割のことについての設問もちょっと充実させるとか、この聞き方をちょっと変えるとかしたほうがいいのかなと思っています。

あとは、やっぱり、この8ページのほうの間16とか17のほうには、女性の意見が反映されていないと考える理由とか結構書いているんですけども、男性についても同じように聞くべきなんじゃないかなと。例えば女性専用車両というのに不満持っている人とかもいたりするし、男性ならではの不満というのも絶対いっぱいありますので、ちょっと平等に、設問をフラットに見直していったほうがいいのかと思いました。

以上です。

(石坂委員長)

設問の見直しは恐らく行っていくと、やっぱり事由に沿わないとか、もうこういう

考え方はないというものについてはこれで言うと削除して、ただ、一方で先ほど言ったように経年的な比較というのもありますので、例えばあまり変わってしまうとどう変わったかという変化の部分が見えないということですから、このあたりは削るものもあれば加えるものもあれば残すものもあるという形で進めていきたいと思っています。

でも、おっしゃるとおりだと思います。これは比較的子育て世代や、あるいは役割分担ですから、一人暮らしの人というのは基本的に1番に丸つけるしかないわけで、この辺はそういうことになりますね。はい、ありがとうございます。

いかがでしょうか、よろしいでしょうか。

ですので、一応これは令和3年度のもので、これは一度結果のほうもホームページにある、あるいは冊子としてもあるということですから、それをちょっとご確認いただいて、次回以降、この設問であったりと、こういう部分を自分たちは知りたいんだと、この部分を明らかにしたいんだということまで含めて、各自ちょっと調べてきていただければと思います。それを最終的にはこの調査の中に盛り込んでいくという形にしていきたいと思っています。

ですので、これはちょっと皆さんには宿題になってしまうかもしれませんが、次回以降ちょっとチェックをしてくるということです。

ということで、結果的には今年度中のいわゆる回答、アンケートはできないわけですが、むしろこれを前向きに捉えて、この本格的な調査のほうに入れられると、本格的な分析が今度はできると。もっと言えば、これは業者さんも分析はしていただけるわけですよ。今後契約をしていくときにそこまで分析も含めた契約をしてもら

えるということもありますので、ちょっと半年間遅くなりますけれども、調査を実施して、よりいいもの、将来的には足立区の計画に役立つようなものをつくっていききたいと思います。

それでは、この点についてはこれで終了とさせていただきます。

それでは、先ほどスケジュールありましたけれども、次回以降ですが、まず今日が第3回になります。第4回、12月22日については、これは資料4ですけれども、シティプロモーション課ヒアリングの代表質問についてということで、これは例年質問を代表、私のほうから10個ぐらい質問させていただくと、残り時間に皆さんからご質問いただくという形式をしています。これは、数年前に皆さんからわっどご質問が出て、結構質問された方が実際怒ってしまったと、何だこれとはと、つるし上げかみたいな話になった経緯があります。町会、自治会の方々ですけれども、こういうことがないように、あらかじめこちらのほうで質問集約をし、私のほうから質問すると。もし何か補足があれば皆さんからという形にしたいと思いますので、次回のときに代表質問10項目ぐらい、これを決定させていただきたいと思います。よろしいでしょうかね。そういう経緯が過去あったということですね。

今回のヒアリング出席者は区役所の方ですから多分そういうことはないと思うんですけれども、一応みんなからわっど来るよりは、あらかじめこういう質問ですということをお伝えしておいたほうがお答えをしやすいと思いますので、これをちょっと集約をします。

それから、(2)として、これはアンケートについてですが、これは皆さん、今日議論したその延長ということになりますの

で、ぜひアンケートを一回見ていただいて、結果も含めて、どういう質問にしたらいいか、あるいはどういう方向性で行くのかということも含めて議論していききたいと思います。

1月28日については、当日この日はいらっしゃいます。シティプロモーション課の方が来るので、ヒアリングをしていききたいと思っています。恐らくですけれども、2時間の中で前半はヒアリングに充てて、後半、そのヒアリング結果を踏まえて皆さんからいろいろ意見をいただくと、こういう構成になると思います。

2月18日ですが、これが実質的には第6回が最後になります。ここでは最終的な報告書、提言をつくるための作業をしていきますので、前半部分としては性別役割分担意識、特にアンケートをこんなようなアンケートにしてほしいという提言ですね。

それから、もう一つは広報・啓発、この辺が不足しているとか、こういうふうにすべきだという意見を皆さんから取りまとめ最終的な報告書とさせていただきますと思います。

この小委員会と書いてあるのは、今日前半で推進委員会やりますけれども、後半の方、ご自身がどちらかというのは皆さん分かりますよね。今回連絡が行ってない方は多分後半、今日来た方という方は今日というので、この日、3月23日は小委員会だけになりますけれども、後半に該当する方は出席をしていただくということになります。

最後にちょっと申し上げておくと、今回の委託業者さんもいらっしゃるのかな。いらっしゃいます。外にいる。ということになります。一応最後ということになります。次年度がございませぬので、例えば

次年度に向けてというアドバイスよりは、どちらかといえば評価と、それから総評を皆さんからいろいろコメントですね。このあたりをいただきたいと思います。

こういう流れで進んでいきますので、ご協力よろしくをお願いします。

議事については以上ということになりますけれども、計画としてはそれでよろしいですかね。

5 その他

(石阪委員長)

それでは、その他ですが、何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、事務局のほうにお返しいたします。

6 事務連絡

(柏村主査)

最後、事務局からご案内がございます。

まず1点目、いつものお願いであります。皆様の机の上に口座振替依頼書をご用意しておりますので、必要事項をご記入いただいて、お手数なんですけれども、上から順にご住所、お名前、それから、最後にもう一枠、お名前を2回目書いていただく欄がございます。こすって消えない通常のボールペンでご記入をお願いいたします。

続いて、2点目が、チラシを4枚配らせていただきました。こちらは全て現在、募集中のものになりますので、ご参加を希望される方については、事務局のほうにお声がけください。

その中で、特にご紹介したいのが「L・フェスタ2025あだち」というものでして、こちらは11月8日、9日、土・日に、こちらL・ソフィアを会場に開催いたします。とてもご好評いただいております、裏面

を見ていただくと、既に満員で受付終了となってしまうものもあるんですけれども、もしよろしければご参加いただければと思います。

片野会長から何か。

(片野委員)

ありがとうございます。今年40回目になります。大分皆様から認知が深まったイベントもありまして、本当に今ご紹介したとおり、いっぱいになってしまったものもあるんですが、実は今回ハリウリサさん、浜ちゃんの公認のものまね芸人さんなんですけれども、その方のトーク&ライブがございます。まだこちらの席に余裕ございますのでぜひ、生歌も披露されますので聞いていただければ。鬼連チャンとかいうのに優勝された方らしく、私は中学生の生徒と3年生の生徒が知っていると言ってくれてとてもうれしかったんですけれども、よろしければぜひ。ご本人も性的マイノリティの方なので、そういうお話もしていただきます。どうぞよろしくをお願いします。

(柏村主査)

ありがとうございます。こちらのL・フェスタ、足立区女性団体連合会と足立区の共催事業となっておりますので、よろしければお越してください。

私からは以上です。

(石阪委員長)

ありがとうございます。

それでは、用意した議題は以上となりますので、以上で男女共同参画の推進委員会のほうは終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。